

# CAE 学習者コミュニティについての考察

植田 恵法<sup>1†</sup>

<sup>1</sup>Modelica ライブラリ勉強会

## Consideration of CAE learner community

Shigenori UEDA<sup>\*†</sup>

<sup>\*</sup>Modelica Library Study Meeting

**Keywords:** Community, Motivation, Skill-up

### 1. はじめに

エンジニアにとって日々のスキルアップや情報収集は必須である。しかし、重要だが緊急性の少ないスキルや情報を日々の業務から得ることは難しく、継続して取り組むことは困難である。そこで、自らと同様の興味を持つ者同士を集めコミュニティを作成することが有効となる。

本稿では勉強会を中心とした学習者同士のコミュニティ（以下、学習者コミュニティ）について必要な基本事項を整理し、筆者が関わっている4つのCAEに関する学習者コミュニティについて分析を行い課題と対策について考察を行った。

### 2. コミュニティの基本事項

本稿では「ある目的のもと同じ興味・目標を持つもの同士が複数人で定期的にコミュニケーションを取る集団」をコミュニティと呼ぶ。ある目的がOSSの開発ならば開発者コミュニティと呼び、勉強が中心となるならば学習者コミュニティと呼ぶ。ただし、OSSの開発を勉強目的で行う場合もあり両者の特徴を有するコミュニティも存在するかもしれない。

コミュニティは複数人でコミュニケーションを取ることを前提としているため、メンバー同士の円滑なコミュニケーションが重要となる。そのためにメンバー同士で正しい共通認識を持つことが必要であり一番基本的な共通認識がコミュニティの目的である。

#### 2.1. コミュニティの目的

コミュニティの目的は管理者の意思に委ねられる。その意志の元に賛同者が集まりコミュニティとしてのカタチを形成する。そして、「何のためにコミュニティが存在するか」についてメンバー同士で共通認識を持つことがコミュニケーションの質を向上させる。目的が抽象的過ぎるとメンバー同士で共通認識を持ち難く、具体的過ぎると興味のある者が少なくコミュニティを構成するだけの人数が集まらない。目的を適切に設定することで有用なコミュニティとなる。また、目的は定期的にメンバー同士で話し合いブラッシュアップすることも健全な運営につながる。

ここで重要なのは、誰もが認識できるように目的を明示することである。明示した目的を確認することでメンバーはお互いに何を欲しているかを認識することが出来る。その結果、その目的のために個々が何をしたらよいかを自発的に考えることが出来る。

#### 2.2. 対象者の定義

目的と強く関連することとして対象者を定義することが挙げられる。メンバー同士が自然と良好な関係を築くためには、同じ共通認識を持つ者同士をコミュニティの対象者と定義することが良い。地域や年齢などで対象者を定義する方法もあるが、学習者コミュニティに関しては技術的な習熟度によって定義することが適当と考える。

初学者にはハンズオンや柔軟な指導が必要であり、熟練者には調査報告やそれに伴うディスカッションがスキルアップに役立つ。習熟度によって取り組む内容を変える必要があり、コミュニティの目的に合わせて

---

<sup>†</sup> E-mail address of corresponding author: molibstudy@gmail.com

どの程度の習熟度を有する人物を対象としているかを明確にすると円滑な運営につながる。

### 2.3. その他

上記以外にもコミュニティには行動規範やツールの選定が重要な基本事項となる。それらは目的に応じて適切に運用されるべきであり、定期的な見直しが必要となる。

オープンな議論や参加者の金銭的な負担が少ない勉強会を開催する場合、商用 CAE ソフトは個人的に購入することが難しいためオープン CAE が有効な選択肢となる。

## 3. 具体的な事例

上記の視点から筆者が関わってきた4つのコミュニティ(計算力学技術者認定試験勉強会、CAE 初心者サークル、Modelica ライブラリ勉強会、オープン CAE 勉強会@関東(流体など))について振り返りを行った。また、上記の中の3つのコミュニティの特徴としてオンラインでのイベントを開催していることが挙げられる。オンラインでのハンズオンや勉強会の有用性や課題を整理し今後の活動に活かしていく。

## 4. おわりに

学習者コミュニティの運営について基本事項を整理し、実際の活動の振り返りを行った。まだ作成後1年以内のコミュニティが多く、ノウハウの蓄積も今後の課題となるが継続・発展出来るように活動を続けていく。